

# あはき師、被災者の心身ほぐす

## 広島土砂災害

### 地元2団体 避難所へ

広島市北部で大きな被害をもたらした土砂災害後、広島県鍼灸マッサージ師会（竹辺博敏会長）と広島県鍼灸師会（山崎正隆会長）が、被災者が身を寄せる避難所で施術ボランティアを行っている。生活再建に向け鍼灸・マッサージが被災者を支える。



梅林小で被災者に施術をするボランティア参加者

8月31日、広島県鍼灸マッサージ師会による施術ボランティアの一派が避難所に向かった。最多の被災者を受け入れている梅林小学校（8月30日正午で496人）と佐東公民館の2カ所。集まった鍼灸・マッサージ師は39人。山口県鍼灸マッサージ師会、国際的な医療支援団体・特定非営利活動法人AMDAなど県外からの参加者もいた。両避難所とも、10時よりボランティア活動を始めた。

梅林小学校では、被災者

のほとんどが机を隅に寄せた教室で過ごしていた。各教室に足を運び、被災者一人ひとりに体の不調などを聞いて、訴えや要望に応じた施術を行った。「被災者の多くは避難生活による疲れと不安から全身症状が出ている」。現場で指揮を執った山田健三先生（広島県鍼灸マッサージ師会常任理事）が話す。また、断熱シートなどが敷かれているものの床は硬く、首や肩、腰が痛むといった声が多かったという。施術はマッサージ・指圧を中心に、衛生面から鍔鍼や円皮鍼などで対処。活動終了の16時まで、被災者115人の心身をほぐした。竹辺会長は、「災害後、広島市地域福祉課やボランティア運営を担

う社会福祉協議会と連絡を取り合い、現地に入った。地方行政との連携による活動となり、意義ある取り組みとなった」と語った。広島県鍼灸師会は災害直後の週末より活動を始め、8月23日、24日、30日、31日、9月7日に八木小学校など3避難所を訪れた。「微力ながら役に立ちたい」と有志らが集まり、毎回5、6人の鍼灸師が被災者に声をかけて回



(上) 広島県鍼灸マッサージ師会の一団 (下) 広島県鍼灸師会の一団

しながら話の聞き役にも徹し、「気持ちがあしでも楽になってくれれば」との思いで取り組んでいる。両師会とも、継続して避難所への施術ボランティアを行っていく。（6面に写真特集）